

第2章

日本語単語辞書

日本語単語辞書は日本語単語辞書レコードを単語見出しの読み順(五十音順)に並べたものである。日本語単語辞書レコードは、レコード番号と、見出し情報、文法情報、意味情報、運用・その他情報、および管理情報から構成される。日本語単語辞書の基本的な役割は、日本語単語と概念の対応関係を記述し、この対応関係が成り立つときの文法的特性を与えることである。日常一般の基本語を対象とする。

===== [日本語単語辞書レコードの構造] =====	
<レコード番号>	:レコードタイプと識別番号
<見出し情報>	: (→2.1 節)
<単語見出し>	:活用語尾つき見出し表記とその読み(→2.1.1 節)
<不変化部-接続属性対>	:構成語の不変化部とその接続属性の対の列 (→2.1.2 節, 表 2-1, 2-2)
<かな表記>	:不変化部のカタカナによる表記(→2.1.3 節)
<発音>	:不変化部のカタカナ表記による発音とアクセント (単一語のみ→2.1.3 節)
<文法情報>	: (→2.2 節)
<品詞>	:品詞(→2.2.1 節, 表 2-3)
<構文木>	:構成語の係受け関係(慣用句のみ→2.2.2 節)
<活用情報>	: (→2.2.3 節)
<活用形情報>	:活用形(不規則活用語のみ→表 2-4)
<活用型情報>	:活用型(規則活用語のみ→表 2-5, 2-6, 2-7)
<表層格情報>	:表層格(用言, 述語句のみ→2.2.4 節, 表 2-8, 2-9)
<相情報>	:相情報(動詞のみ→2.2.4 節, 表 2-10)
<機能語情報>	:機能語情報(機能語のみ→2.2.4 節, 表 2-11, 2-12, 2-13)
<意味情報>	: (→2.3 節)
<概念識別子>	:概念の同一性を示す番号(→2.3.1 節)
<概念見出し>	:概念を代表する単語見出し(内容語のみ→2.3.2 節)
<日本語概念見出し>	:概念を代表する日本語単語見出し
<英語概念見出し>	:概念を代表する英語単語見出し
<概念説明>	:概念の文章による説明(内容語のみ→2.3.2 節)
<日本語概念説明>	:概念の日本語による説明
<英語概念説明>	:概念の英語による説明
<運用・その他情報>	: (→2.4 節)
<用法>	:語の用法(→2.4.1 節, 表 2-14)
<頻度>	:出現頻度(→2.4.2 節)
<管理情報>	
<管理履歴レコード>	:更新日付等の管理情報
=====	

===== [日本語単語辞書レコードの例(名詞)] =====

<レコード番号>	JWD0405240
<見出し情報>	
<単語見出し>	夕飯[ユウハン]
<不変化部-接続属性対>	夕飯(普通名詞, 普通名詞)
<かな表記>	ユウハン
<発音>	ユーハン
<文法情報>	
<品詞>	普通名詞
<構文木>	
<活用情報>	
<活用形情報>	
<活用型情報>	
<表層格情報>	
<相情報>	
<機能語情報>	
<意味情報>	
<概念識別子>	3c2374
<概念見出し>	
<日本語概念見出し>	夕食[ユウシヨク]
<英語概念見出し>	supper
<概念説明>	
<日本語概念説明>	夕方とる食事
<英語概念説明>	an evening meal
<運用・その他情報>	
<用法>	
<頻度>	8/8
<管理情報>	
<管理履歴レコード>	DATE=93/3/12

=====

===== [日本語単語辞書レコードの例(動詞)] =====

〈レコード番号〉	JWD0371001
〈見出し情報〉	
〈単語見出し〉	食べる[タベ・ル]
〈不変化部-接続属性対〉	食べ(動詞, 一段動詞語幹)
〈かな表記〉	タベ
〈発音〉	タベ'
〈文法情報〉	
〈品詞〉	動詞
〈構文木〉	
〈活用情報〉	
〈活用形情報〉	
〈活用型情報〉	一段活用
〈表層格情報〉	ガ;ヲ;デ
〈相情報〉	テイル後接で進行相;テクル後接で移動
〈機能語情報〉	
〈意味情報〉	
〈概念識別子〉	3bc6f0
〈概念見出し〉	
〈日本語概念見出し〉	食べる[タベ・ル]
〈英語概念見出し〉	eat
〈概念説明〉	
〈日本語概念説明〉	食物をとる
〈英語概念説明〉	to eat something
〈運用・その他情報〉	
〈用法〉	
〈頻度〉	492/531
〈管理情報〉	
〈管理履歴レコード〉	DATE=89/2/17

=====

===== [日本語単語辞書レコードの例(述語句)] =====	
<レコード番号>	JWD0238660
<見出し情報>	
<単語見出し>	足場を固める [アシバヲカタメ・ル]
<不変化部-接続属性対>	足場(普通名詞, 普通名詞)/を(体言後接助詞, 係助詞後接格助詞)/[{*(*,*)}]/ 固め(動詞, 一段動詞語幹)
<かな表記>	アシバ/ヲ//カタメ
<発音>	
<文法情報>	
<品詞>	述語句
<構文木>	連用修飾句(普通名詞(足場)/助詞(を)) /[{連用修飾句(*)}]/述語句(動詞(固め))
<活用情報>	
<活用形情報>	
<活用型情報>	一段活用
<表層格情報>	ガ;デ;ノ
<相情報>	テイル後接で進行相;テイル後接で完了相 または結果状態相;テクル後接で移動
<機能語情報>	
<意味情報>	
<概念識別子>	1ecf38
<概念見出し>	
<日本語概念見出し>	足場を固める [アシバヲカタメ・ル]
<英語概念見出し>	
<概念説明>	
<日本語概念説明>	物事を行う場合の抛り所を確立する
<英語概念説明>	to obtain a footing
<運用・その他情報>	
<用法>	
<頻度>	2/2
<管理情報>	
<管理履歴レコード>	DATE=93/10/15
=====	

2.1 見出し情報

見出し情報は、単語見出し・不変化部-接続属性対・かな表記・発音からなっている。見出しとしては、日常生活で用いられる単語、一般化した専門用語や固有名詞、略語、および熟語や成句などが収録される。

2.1.1 単語見出し

単語見出しは、見出し語の活用語尾つきの表記とその読みの組である。活用語尾は、見出し語が活用語の場合にその終止形語尾が表示される。ただし、タルト活用形容動詞に限りその連体形語尾が表示される。読みは、カタカナまたは記号、英数字で表示され、活用語の場合は、活用語尾の直前に中点'・'が挿入される。単語見出しは、冊子体辞書における見出しにあたり、ある単語と他の単語との識別を人間が行ない易くするためのものである。単語見出しの異なり数を単語辞書の語数という。

2.1.2 不変化部-接続属性対

不変化部-接続属性対は、単語見出しを構成語に区切り、各構成語の表記と接続属性を対にして、並べたものである。不変化部-接続属性対は、文解析において最初のプロセスである形態素解析で、文を構成する単語を見つけだすための辞書引きに使用され、また、文生成では最終的に文を作りあげる形態素生成で使用される。

各構成語の表記は、単語の不変化部分のみでできている。単語の不変化部分とは活用語が活用する場合の純粋に文字列としての不変化部分であり、必ずしも語根を意味しない。接続属性は、その語が使用される時の隣接単語との接続制約を示す記号である。接続属性は、左接続属性と右接続属性から構成されるが、詳細は、後で述べる。

不変化部-接続属性対を表す場合には、

表記(左接続属性名、右接続属性名)/...

の形式を用いる。

単語見出しが慣用句の場合は、不変化部-接続属性対が'/'で区切られた2つ以上の列で記述される。慣用句とは、二つ以上の文節からなって、全体として一つの構文要素となり、かつ、個々の構成語の概念からは導かれない概念をもつものをいう。なお、単語見出しの語末が規則活用する場合、末尾の語尾は接続属性により復元可能なので省略される。

構成語間には、特に表記の特定されない語句が挿入される可能性がある。このような場合、構成語見出しの表記が不定の部分は、単語クラス名によってその位置に来る語群を指示する。単語クラス名'＊'は全ての単語を代表する特殊な単語クラス名である。現在、日本語単語辞書に記述されている単語クラス名は、'＊'のみである。その他の語群を指示する単語クラス名は、必要により登録することができる。また、接続属性が不定の場合は、左右接続属性名の代わりに'＊'を用いる。

接続属性は、形態素間の接続可能性(ある形態素がどの形態素と隣接することができるか)という観点からみた属性である。

接続属性を考えるにあたっては次のことを考慮している。

- (1) 単語間の接続の可否を表す接続文法規則の数を少なくする。
- (2) 熟語や成句を単語辞書に入れやすくする。

接続属性には、単語の接続性を右と左に分離して考える二方向接続文法を採用しており、1つの単語は接続属性として、左側接続属性(表 2-1)と右側接続属性(表 2-2)を持つ。接続規則には、左側接続属性と右側接続属性の間の接続の可否についての情報が書かれている。この方式は、単語のもつ属性を接続という観点から考えた時に、単語の右側に接続可能な単語のグループと、左側に接続可能な単語のグループが違ってくるため、接続属性を左右に分離しておけば、属性の種類を少なくできるという考えに基づいている。接続属性が少なくなれば、接続規則の数も少なくすむことになる。

この接続属性を用いて、形態素間の接続可能性を示す接続規則が作成され、形態素解析や生成で使用される。

名詞類の接続規則の例

	JJJJJJJJJJJJJJJJJJJJJ LLLLLLLLLLLLLLLLLSSSSSS NNNNNNNNVAMDDRCCTFFFFF 123456789111121131145789A																				
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 10%; padding: 2px 0;">JRN1</td><td style="padding: 2px 0;">ooo..o.o.....o..o.....</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN2</td><td style="padding: 2px 0;">oo..o.o.....o...@o...</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN3</td><td style="padding: 2px 0;">oo..o.o.....o...o...</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN4</td><td style="padding: 2px 0;">ooo..o.o.....o..o.....</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN5</td><td style="padding: 2px 0;">.....o.o.....o...o...</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN6</td><td style="padding: 2px 0;">.....o.o.....o.....</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN7</td><td style="padding: 2px 0;">.....o.....o.....</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN8</td><td style="padding: 2px 0;">o.o..o.o.ooo...o.....@o</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRN9</td><td style="padding: 2px 0;">oooo.ooooooo.ooo.....@.</td></tr> <tr><td style="padding: 2px 0;">JRNA</td><td style="padding: 2px 0;">oooo.ooooooo.ooo..o.o...</td></tr> </table>	JRN1	ooo..o.o.....o..o.....	JRN2	oo..o.o.....o...@o...	JRN3	oo..o.o.....o...o...	JRN4	ooo..o.o.....o..o.....	JRN5o.o.....o...o...	JRN6o.o.....o.....	JRN7o.....o.....	JRN8	o.o..o.o.ooo...o.....@o	JRN9	oooo.ooooooo.ooo.....@.	JRNA	oooo.ooooooo.ooo..o.o...
JRN1	ooo..o.o.....o..o.....																				
JRN2	oo..o.o.....o...@o...																				
JRN3	oo..o.o.....o...o...																				
JRN4	ooo..o.o.....o..o.....																				
JRN5o.o.....o...o...																				
JRN6o.o.....o.....																				
JRN7o.....o.....																				
JRN8	o.o..o.o.ooo...o.....@o																				
JRN9	oooo.ooooooo.ooo.....@.																				
JRNA	oooo.ooooooo.ooo..o.o...																				
	<p style="text-align: center;">[強い接続(@):接続可(o):接続不可(.)]</p>																				

2.1.3 かな表記と発音

かな表記は単語の不変部分のカタカナによる読みが記述されており、かな漢字変換を行ったり、文章の読みを求めるのに使用される。

発音は、単一語についてのみ記述され、音声合成などに使用される。

発音は、単語の不変部分の発音とアクセントを記述している。日本語ではかな表記と記号を用いて、発音とアクセントを示す。ただし、濁音と鼻濁音の区別、長音、促音の扱いなどについては特に対処せず、慣用的な表記とした。

また、アクセントについては、東京地方の標準的なアクセントに基づいて、その降下位置を記号' 'を用いて表す。名詞については助詞が後接する場合のアクセントを記述し、活用語については、

終止形の場合のアクセントを記述する。アクセント位置が2ヶ所以上あるものには、一連の上昇一降下のまとまりの末尾に記号'」'を入れて区切る。

かな表記と発音の例

単語見出し	かな表記	発音
東京	トウキョウ	トーキョー
ボーイ	ボーイ	ボーイ
通り	トオリ	トーリ'
切る	キ	キ'
着る	キ	キ
雨蛙	アマガエル	アマガ' エル
箸	ハシ	ハ' シ
橋	ハシ	ハシ'
端	ハシ	ハシ
足音	アシオト	アシオ' ト

2.2 文法情報

文法情報は、品詞・構文木・活用情報・表層格情報・相情報・機能語情報からなっている。これらの情報は、文の構文的な構造を見つけだすための構文解析や、ある意味を文章で表現するときはどういった構造の文を作るのかを決めるための構文生成で使用される。

2.2.1 品詞

品詞は、すべての日本語単語辞書レコードに記述されている。日本語単語辞書における品詞名一覧を表 2-3 に示す。慣用句には、体言句、述語句、文などの品詞名が記述される。

2.2.2 構文木

構文木は、単一語でない単語見出しにのみ記述されている。構文木は、慣用句を構成する要素語が慣用句の内部でどのような構文構造をとるのかを示したものである。これは、慣用句を含む文の解析および生成において、慣用句を構成する各々の構成語の構文的役割や文法的振舞いを見つけ出すために用いられる。

構文木は、構文的なまとまりを示す節点に品詞名を付与する形で再帰的に記述したものである。葉は慣用句を構成する構成語の構成語見出しとなっている。

構文木は、以下の規則により導出される。

〈構文木〉	::=	〈構文要素〉	
		〈構文木〉/〈構文木〉	
		〈品詞〉(〈構文木〉)	
		{〈構文木〉}	
		[〈構文木〉]	
〈構文要素〉	::=	〈品詞〉(〈構成語見出し〉)	

ここで、

(1) 同じ深さの構文木は、'/' で区切られる。

(2) 構文要素が挿入される可能性を明示するため、構文要素を' {} 'または' [] 'で括る。

' {} 'は、挿入が必須であることを示し、' [] 'は、挿入が必須でなく省略可能であることを示す。

2.2.3 活用情報

日本語の活用情報には、活用語の見出しの活用形を示す活用形情報(表 2-4)と、活用語の活用の仕方を示す活用型情報の2種類がある。活用型情報は、動詞型活用(表 2-5)、形容詞型活用(表 2-6)、形容動詞型活用(表 2-7)の3種が設定されている。助動詞もこれらの活用型で記述できるものは、この枠組みで記述される。ただし、特殊な活用をもつ助動詞など、これらの活用型に当てはまらない用言については、可能な活用形を全て別見出しとして辞書登録し、各活用形ごとに活用形情報が付与される。また、活用語の活用語尾の見出しにも、活用形情報が付与されている。

2.2.4 表層格情報、相情報、機能語情報

日本語辞書に記述される文法情報には、用言の取る表層格の情報(表 2-8、表 2-9)や動詞の相の情報(表 2-10)や機能語に関する情報(表 2-11、表 2-12、表 2-13)がある。

表層格情報は、状況成分でない成分についてのみ記述する。ここでは、以下の場合を状況成分と考え、コード付与を行っていない。

- (1) 時間を示す「に」格
- (2) 時間、場所、場面、原因、理由、根拠を示す「で」格
- (3) 時間、場所を示す「まで」格(ただし、「(4時まで)待つ」、「(駅まで)近い」などのように、時間、場所に強く関わる用言は除く。)
- (4) 時間、場所、原因、理由を示す「から」格(ただし、「(4時から)待つ」、「(駅から)遠い」などのように、時間、場所に強く関わる用言は除く。)

相情報は、文の諸相の解析のために最低限必要と考えられる動詞の相分類を示すコードである。

機能語情報は、同一の機能をもつ機能語グループの識別コードである。

2.3. 意味情報

意味情報は、概念識別子・概念見出し・概念説明からなる。これは概念辞書の基本構成要素である概念に関する情報である。

人間はある単語を見たときに、その単語によって想起されるいくつかのイメージを思い浮かべることができる。このようなイメージの中で個別の状況に依存しない高い一般性を持つものを概念と呼ぶ。概念は、単語辞書において単語の多義性を識別するための情報であり、一般の辞書における語義に相当するが、言語に対して独立に設定される点異なる。

2.3.1 概念識別子

概念識別子は数であり、概念の同一性を保持するためのものである。概念識別子は、すべての単語に記述されており、概念辞書へのリンク情報となっている。

2.3.2 概念見出しと概念説明

内容語には、概念識別子の他に概念見出しおよび概念説明が付されている。内容語は、自立した実質概念をもつ語で、日本語では、名詞類、動詞類、形容詞類、形容動詞類、副詞類、連体詞類、構文要素類がこれにあたる。

概念見出しには、その概念を代表するにふさわしい単語見出しが記述される。したがって、日本語固有の概念など、その概念を代表するにふさわしい英語単語見出しが存在しないものには、英語概念見出しが省略されることがある。

概念説明は、概念の文章などによる説明で、ある概念と他の概念との識別を人間が行い易くするためのものである。

なお、概念に関するより詳細な記述は、「概念辞書」の章を参照されたい。

意味情報の例

単語見出し	概念見出し		概念説明	
	日本語概念見出し	英語概念見出し	日本語概念説明	英語概念説明
犬[イヌ]	犬[イヌ]	dog	犬という動物	an animal called dog
犬[イヌ]	スパイ[スパイ]	spy	スパイという 役割の人	a person who spys

2.4 運用・その他情報

運用・その他情報は、用法および頻度からなっている。これらは、文解析や文生成における尤度の評価などに使用できる。

2.4.1 用法

単語には、特定の場面、特定の用法において用いられる傾向の強いものがある。このような単語を含む文の処理を行うための手掛かりとして記述されているのが用法(表 2-14)である。

2.4.2 頻度

個々の単語が日本語コーパスにおいて出現する頻度を単語別、概念別に、実数で記述してある。

頻度の例

単語見出し	日本語概念説明	概念別頻度/単語別頻度
食べる[タベ・ル]	食物をとる	492/531
食べる[タベ・ル]	生計を立てる	18/531

2. a 諸表

表 2-1	日本語左側接続属性(LC)
表 2-2	日本語右側接続属性(RC)
表 2-3	日本語品詞名
表 2-4	日本語の活用形情報
表 2-5	日本語の動詞型活用
表 2-6	日本語の形容詞型活用
表 2-7	日本語の形容動詞型活用
表 2-8	日本語動詞の表層格情報
表 2-9	日本語形容詞・形容動詞の表層格情報
表 2-10	日本語動詞の相情報
表 2-11	日本語の機能語(助詞および助詞相当語)
表 2-12	日本語の機能語(助動詞および助動詞相当語)
表 2-13	日本語のその他の機能語(形式名詞、数詞、接続詞)
表 2-14	用法

表2-1 日本語左側連接属性(LC)

カテゴリ	コード	例	説明
普通名詞	JLN1	仕様書	品詞が普通名詞である名詞の内、以下に示すサ変名詞または代名詞でないものをいう。
固有名詞	JLN2	揚子江	地名、人名、製品名など、固有につけられた呼び名をいう。
サ変名詞	JLN3	決断、通信、委譲	同じ概念で、名詞にもサ変動詞にもなりうるもの。
代名詞	JLN4	私、これ、それ	指示代名詞および人称代名詞。
形式名詞	JLN5	こと、もの、はず	必ず、連体修飾句に修飾されて成り立つ名詞で、それ自体では、指示するものが限定できない不完全な概念である。
数詞	JLN6	2、千、億	アラビア数字、ローマ数字、漢数字など、数字列を構成する数字そのものおよび数字のけたを表わすもの。
時詞	JLN7	明日、それ位	同じ概念で、名詞(格助詞を後接して、述語にかかる)としても、副詞(格助詞なしで述語にかかる)としても機能するもの。時を表わす概念とは限らず、以上の構文的機能を持つものを含む。
記号	JLN8	a	特定の概念を持たずに、単に指示機能を持つだけの文字としての記号。
動詞	JLV1	置(く)、行な(う)	終止形が母音ウで終わる活用語。サ行変格活用するもので、サ変名詞にはならないものも含む。
形容詞	JLA1	大き(い)、難し(い)	終止形がイで終わる活用語。
形容動詞	JLM1	きれい(だ)、堂々(たる)	(1)終止形がダで終わる活用語。 ・同じように、ダがつく名詞との違いは、格助詞(ガ、ヲ)が続かない点である。同じようにダがつくこともある副詞との違いは、語幹のみで連用修飾語とならない点である。 ・連体形は、基本的にナで終わる。ただし、他にナを介せず、直接連体修飾語となるもの、ノを介して連体修飾語となるものもある。例えば、「同じ本」、「久し振りの会食」など。 ・連用形は、基本的に、ニを介して、副詞と同様、連用修飾語となることができる。ただし、ニを後接して連用修飾語になることがないものもある。 (2)終止形ダをとらないが、連体形タル、連用形トをとるもの(タルト活用)も形容動詞を含む。

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
副詞	JLD2	まだ、 ほとんど(の子供)	基本的に、そのまま、連用修飾語となることができるもの。量や程度を示す副詞は、名詞にもかかることができる。
連体詞	JLR1	ある、いかなる、 あらゆる、あの	連体修飾語にしかならない単語。指示連体詞も含む。
文中出現可能接続詞	JLC1	および、または、 かつ、あるいは	文と文のつながりにも、単語と単語のつながりにも使える接続詞。
文頭接続詞	JLC3	なにしろ、それで	文と文をつなぐ接続詞。
感動詞	JLT1	ありがとう、 どっこいしょ	活用がなく、主語、修飾語にならず、独立して用いられる語の中で、感動の感情を表したり、呼びかけ、応答等を表すもの。
名詞接尾語	JSF1	類、制、 (地域、通信)別	名詞あるいはサ変名詞のいずれにも後接しうる接尾語。
固有名詞接尾語	JSF4	(大島)宅、(EDR)製	固有名詞に後接する接尾語。
人称名詞接尾語	JSF5	達、(木村)君、 (学校長)殿	人称名詞に後接する接尾語。固有名詞にも接続可。
単位・後置助数詞接尾語	JSF7	(10個)強	単位・後置助数詞に後接する接尾語。
時詞接尾語	JSF8	(三日)頃、過ぎ、 (午前四時)前	時を表わす単語に後接する接尾語。
単位	JSF9	(1)m、 (10キロ)グラム、 (25ナノ)秒	数値またはS I 接頭語に続いて、単位を表わす。
後置助数詞・S I 接頭語	JSFA	(二)本、(十)冊、 (25)ミリ	数値に続いて、何の数であることを示唆する。
読点	JLS1	「、」、 「, 」	読点および読点に相当する記号。
句点	JLS2	「。」、 「. 」	句点および句点に相当する記号。
サ変名詞接尾語	JSF6	(IMFの管理)下	サ変名詞に後接する接尾語(旧JLJ6)
並立助詞か	JL00H		
終助詞か	JL00E		
副助詞か	JL00F		
接続助詞かたわら	JL01S		
終助詞かな	JL02E		
係助詞かも	JL03K		

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
格助詞から	JL04C		
並立助詞から	JL04H		
接続助詞から	JL04S		
副助詞から	JL04F		
格助詞が	JL05C		
接続助詞が	JL05S		
終助詞が	JL05E		
係助詞きり	JL06K		
副助詞くらい	JL07F		
接続助詞けれど	JL08S		
終助詞けれど	JL08E		
接続助詞けれども	JL09S		
終助詞けれども	JL09E		
係助詞こそ	JL10K		
間投助詞さ	JL11I		
副助詞さえ	JL12F		
接続助詞し	JL13S		
係助詞しか	JL14K		
副助詞しも	JL15F		
副助詞すら	JL16F		
副助詞ずつ	JL17F		
終助詞ぜ	JL18E		
終助詞ぞ	JL19E		
接続助詞たって	JL20S		
副助詞たら	JL21F		
終助詞たら	JL21E		
並立助詞たり	JL22H		
副助詞だけ	JL23F		
並立助詞だの	JL24H		
副助詞だの	JL24F		

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
接続助詞つつ	JL25S		
接続助詞て	JL26S		
係助詞ては	JL27K		
接続助詞ても	JL28S		
格助詞で	JL29C		
接続助詞で	JL29S		
格助詞と	JL30C		
並立助詞と	JL30H		
接続助詞と	JL30S		
並立助詞とか	JL31H		
副助詞とか	JL31F		
接続助詞ところが	JL32S		
接続助詞ところで	JL33S		
接続助詞とて	JL34S		
副助詞とて	JL34F		
係助詞とは	JL35K		
終助詞とも	JL36E		
接続助詞とも	JL36S		
接続助詞ど	JL37S		
副助詞どころ	JL38F		
接続助詞どころか	JL39S		
接続助詞ども	JL40S		
間投助詞な	JL41I		
接続助詞ながら	JL42S		
並立助詞など	JL43H		
副助詞など	JL43F		
接続助詞なら	JL44S		
並立助詞なり	JL45H		
接続助詞なり	JL45S		
副助詞なり	JL45F		

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
並立助詞なんか	JL46H		
副助詞なんか	JL46F		
副助詞なんて	JL47F		
格助詞に	JL48C		
接続助詞に	JL48S		
格助詞にて	JL49C		
終助詞ね	JL50E		
間投助詞ね	JL50I		
格助詞の	JL51N		
準体助詞の	JL51J		
終助詞の	JL51E		
接続助詞ので	JL52S		
接続助詞のに	JL53S		
終助詞のに	JL53E		
副助詞のみ	JL54F		
係助詞は	JL55K		
接続助詞ば	JL56S		
並立助詞ばかり	JL57H		
副助詞ばかり	JL57F		
格助詞へ	JL58C		
副助詞ほか	JL59F		
副助詞ほど	JL60F		
格助詞まで	JL61C		
並立助詞まで	JL61H		
係助詞も	JL62K		
終助詞もの	JL63E		
接続助詞ものの	JL64S		
接続助詞ものゆえ	JL65S		
並立助詞や	JL66H		
接続助詞や	JL66S		

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
副助詞や	JL66F		
終助詞や	JL66E		
間投助詞や	JL66I		
接続助詞やいなや	L67S		
並立助詞やら	JL68H		
副助詞やら	JL68F		
終助詞やら	JL68E		
接続助詞ゆえ	JL69S		
終助詞よ	JL70E		
格助詞より	JL71C		
終助詞わ	JL72E		
格助詞を	JL73C		
準体助詞ん	JL74J		
接続助詞くせに	JL75S		
接続助詞さかい	JL76S		
接続助詞じゃ	JL77S		
接続助詞だって	JL78S		
並立助詞だり	JL79H		
係助詞ちゃ	JL80K		
終助詞ちゃ	JL80E		
格助詞って	JL81C		
副助詞ってば	JL82F		
終助詞ってば	JL82E		
係助詞では	JL83K		
副助詞でも	JL84F		
接続助詞でも	JL84S		
係助詞ならでは	JL85K		
終助詞ものか	JL86E		
副助詞etc.	JL87F		

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
動詞終止形に後接する助動詞, 接尾語	JLWL	べし, 莫れ	動詞終止形に後接する助動詞, 接尾語(旧JLJ4)
体言・動詞命令形に後接する接尾語	JLWM	がし	体言・動詞命令形に後接する接尾語(旧JLJ5)
サ変名詞・動詞連用中止形に後接する補助用言, 接尾語	JLWN	できる, 盛り	サ変名詞・動詞連用中止形に後接する補助用言, 接尾語(旧JLJ7)
形容詞連用形「く」・形容動詞連用形「に」に後接する補助用言	JLWP	する, ゆく みえる	形容詞連用形「く」・形容動詞連用形「に」に後接する補助用言(旧JLJA)
サ変名詞・動詞終止形に後接する補助用言, 接尾語	JSFV	に及ばない分	サ変名詞・動詞終止形に後接する補助用言, 接尾語(旧JLJ8)
連体詞によって修飾されると副詞的用法になり得る名詞	JLNA	(その)時刻	連体修飾を受けると副詞的用法となりうる名詞
五段未然形・サ変未然形さ・一段動詞語幹後接助動詞	JLW1	(行か)せ(る)、 (話さ)せ(る)、 (見)せ(る)	
ザ変未然形ぜ・カ変未然形・一段動詞語幹後接助動詞	JLW2	(軽んぜ)られ(る)、 (こ)られ(る)、 (見)られ(る)	
五段未然形・サ変未然形せ・ザ変未然形ぜ・カ変未然形後接助動詞	JLW3	(行か)しめ(る)	
動詞未然形・形容詞連用形・形容動詞連用形等後接助動詞	JLW4	(行か)ない、 (美しく)ない	
動詞型活用未然形後接助動詞	JLW5	(行か)ぬ、(なら)ぬ	
五段未然形等後接助動詞	JLW6	(行)こう	
五段以外未然形後接助動詞	JLW7	(見)よう	

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
五段動詞終止形・助動詞ます終止形・サ変未然形し・カ変連体形・1段活用連体形後接助動詞	JLW8	(行く)まい、 (行きます)まい、 (中止し)まい、 (来る)まい、 (見る)まい	
動詞型活用連用形後接助動詞	JLW9	ます	
助動詞た	JLWA	(行っ)た	完了の助動詞「た」。
助動詞だ(完了)	JLWB	(遊ん)だ	完了の助動詞「た」の音便形。「花だ」など、断定の「だ」は含まない。
様態助動詞	JLWC	(行き)そう(だ) そうだ	
助動詞たい	JLWD	(行き)た(い)	
伝聞助動詞	JLWE	(行く)そうだ そうだ	
助動詞	JLWF	(行く)らし(い)、 らしい、 (あなた)らし(い)	
助動詞だ(断定)	JLWG	(あなた)だ	
助動詞だろう(断定推量)	JLWH	(行く)だろ(う)、 (あなた)だろ(う)	
助動詞です	JLWI	(あなた)です	
助動詞	JLWJ	(あなた)でしょ(う) でしょう	
助動詞ようだ	JLWK	(行く)よう(だ)、 (鳥の)よう(だ)	
カ行五段活用語尾	JSVK	か、き、い、 く、け、こ	
ガ行五段活用語尾	JSVG	が、ぎ、い、 ぐ、げ、ご	
サ行五段活用語尾	JSVS	さ、し、す、 せ、そ	
タ行五段活用語尾	JSVT	た、ち、っ、 つ、て、と	

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
ナ行五段活用語尾	JSVN	な、に、ん、 ぬ、ね、の	
バ行五段活用語尾	JSVB	ば、び、ん、 ぶ、べ、ぼ	
マ行五段活用語尾	JSVM	ま、み、ん、 む、め、も	
ラ行五段活用語尾	JSVR	ら、り、っ、 る、れ、ろ	
ワ行五段活用語尾	JSVW	わ、い、っ、 う、え、お	
一段動詞活用語尾	JSV1	る、れ、ろ	
サ行変格活用語尾	JSV2	し、さ、せ、 し、する、す れ、しろ、せよ	
ザ行変格活用語尾	JSV3	じ、ぜ、じ、ず る、ずれ、じ ろ、ぜよ	
カ行変格活用語尾	JSV4	こ、き、くる、 くれ、こい	
イク活用語尾	JSV5	か、き、っ、 く、け、こ	
アル活用語尾	JSV6	ら、り、っ、 る、れ、ろ	
オッシュアル活用語尾	JSV7	ら、り、 い、っ、る、 れ、ろ、い(よ)	
形容詞語幹後接語	JSA0	(すずし)げ、 (うれし)さ、 (美し)き	形容詞の語幹に後接する接尾語や、以下の形容詞活用語尾に含まれない特殊な活用語尾。
形容詞活用語尾	JSA1	かろ、く、 かつ、う、い、 けれ	
イ段終止形容詞語幹後接語尾	JSA2	かろ、く、 かつ、ゆう、 い、けれ	「(美し)ゆう」など、語幹部分がイ段で終わる形容詞語幹に続く語尾。

表2-1 日本語左側連接属性(LC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
助動詞ナイ活用語尾	JSA3	かろ、く、 かつ、い、い、 けれ	
形容動詞語幹後接語	JSM0	(静か)さ、 (静か)じゃ	形容動詞の語幹に後接する接尾語や、以下の形容動詞活用語尾に含まれない特殊な活用語尾。
ダ活用形容動詞活用語尾	JSM1	だろ、だっ、 で、に、だ、 な、なら、な(のに)	
ダ活用形容動詞活用語尾連用「に」なし	JSM2	だろ、だっ、 で、だ、な、なら、 な(のに)	「危険だ」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
ダ活用形容動詞活用語尾連体「の」あり	JSM3	だろ、だっ、 で、に、だ、 な、なら、の、 な(のに)	「癪だ」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
ダ活用形容動詞活用語尾連用「に」なし・連体「の」あり	JSM4	だろ、だっ、 で、だ、な、なら、 の、な(のに)	「多額だ」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
ダ活用形容動詞活用語尾連体「の」あり・連体「な」なし	J SMA	だろ、だっ、 で、に、だ、な ら、の、な(のに)	「久しぶりだ」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
直接連体修飾可能ダ活用形容動詞活用語尾連体「な」なし	JSM5	だろ、だっ、 で、に、だ、なら、 な(のに)	「こんなだ」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
タルト活用形容動詞活用語尾	JSM7	と、たる、の	「堂々たる」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。
タルト活用形容動詞活用語尾連体「の」なし	JSM8	と、たる	「洋々たる」などと同じ活用型をもつ形容動詞の活用語尾。

表2-2 日本語右側連接属性(RC)

カテゴリ	コード	例	説明
普通名詞	JRN1	衛生、政権	品詞が普通名詞である名詞の内、以下に示す人称名詞、サ変名詞、人称代名詞、または指示代名詞でないものをいう。
固有名詞	JRN2	揚子江	地名、人名、製品名など、固有につけられた呼び名をいう。
人称名詞	JRN3	長老、首相、助役	人称名詞接尾語(君、殿、達)が続く名詞。
サ変名詞	JRN4	任命、作業、移動	同じ概念で、名詞にもサ変動詞にもなりうるもの。「が/を」な格助詞を後続することも、「する」を後続することもできる。サ変動詞にはなるが名詞にならないもの、つまり、サ変動詞語幹(JRV2)やザ変動詞語幹(JRV3)は、ここに含まない。 例えば、「勉強を始める」など、「勉強すること」という概念の「勉強」は、ここに分類される。しかし、「勉強がだんだん難しくなる」など、「勉強する内容」という概念の「勉強」は、普通名詞(JRN1)である。 また、「託する」の「託」は、名詞になれないので、サ変動詞語幹(JRV2)に分類される。
人称代名詞	JRN5	私、彼、彼女	
指示代名詞	JRN6	これ、それ、あれ	
形式名詞	JRN7	こと、もの、はず	必ず、連体修飾句に修飾されて成り立つ名詞で、それ自体では、指示するものが限定できない不完全な概念である。
数詞	JRN8	2、千	アラビア数字、ローマ数字、漢数字など、数字列を構成する数字そのものおよび数字のけたを表わすもの。なお、ここに分類される語群は、左連接属性が数詞(JLN6)である。
時詞	JRN9	今日	同じ概念で、名詞(格助詞を後接して、述語にかかる)としても、副詞(格助詞なしで述語にかかる)としても機能するもの。時を表わす概念とは限らず、以上の構文的機能を持つものを含む。
記号	JRNA	a	特定の概念を持たずに、単に指示機能を持つだけの文字としての記号。
単位	JRNB	(1) m、(50) cm	数字が後接できる単位。なお、ここに分類される語群は、左連接属性が単位(JSF9)である。

表2-2 日本語右側接続属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
けた	JRND	万、億、兆	数字列のうち、けたを表わす部分。なお、ここに分類される語群は、左接続属性が数詞(JLN6)である。
後置助数詞	JRNE	(1)本、(10)バイト	助数詞および数字が後接できない単位。なお、ここに分類される語群は、左接続属性が後置助数詞・S I 接頭語(JSFA)である。
S I 接頭語	JRNF	ギガ(ビット)	単位が後接する接頭語。なお、ここに分類される語群は、左接続属性が後置助数詞・S I 接頭語(JSFA)である。
カ行五段動詞語幹	JRVK	聞、招	
ガ行五段動詞語幹	JRVG	脱、泳	
サ行五段動詞語幹	JRVS	貸、残	
タ行五段動詞語幹	JRVT	勝、育	
ナ行五段動詞語幹	JRVN	死	
バ行五段動詞語幹	JRVB	呼、遊	
マ行五段動詞語幹	JRVM	読、望	
ラ行五段動詞語幹	JRVR	居	
ワ行五段動詞語幹	JRVW	会、思	
一段動詞語幹	JRV1	射、着、見	
サ変動詞語幹	JRV2	称(する)	
ザ変動詞語幹	JRV3	感(ずる)	
カ変動詞語幹	JRV4	やって(くる)	
イク活用動詞語幹	JRV5	行	
アル活用語幹	JRV6	あ(る)	
オッシュアル活用語幹	JRV7	おっしゃ、くださ、いらっしゃ	
形容詞語幹	JRA1	少ない	
語幹がイ段で終わる形容詞語幹	JRA2	大きい 美しい	「う」が続く時、「きゅう、しゅう」のように音便化する。
助動詞ナイ語幹	JRA3	(し)ない	
ダ活用形容動詞語幹	JRM1	静か(だ)	

表2-2 日本語右側接続属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明	
ダ活用形容動詞語幹 連用「に」なし	JRM2	危険(だ)	活用語尾が接続する場合、形容動詞語幹(JRM1)と同じ活用語尾をとる。	
ダ活用形容動詞語幹 連体「の」あり	JRM3	無心(の)		
ダ活用形容動詞語幹 連用「に」なし・ 連体「の」あり	JRM4	多額(の)		
ダ活用形容動詞語幹 連体「の」あり・ 連体「な」なし	JRMA	久し振り(だ)		
直接連体修飾可能 ダ活用形容動詞語幹 連体「な」なし	JRM5	こんな(物)		
直接連体修飾可能 ダ活用形容動詞語幹 体言後接「な」可能	JRM9	多角的(だ)		
タルト活用 形容動詞語幹	JRM7	堂々		
タルト活用 形容動詞語幹 連体「の」なし	JRM8	洋々		
助詞後接不可副詞	JRD2	めったに		後接助詞が何もつかずに連用修飾語となる。
助詞ト後接副詞	JRD3	すっきり		助詞トが接続可能。
助詞ニ後接副詞	JRD4	わりあい	助詞ニが接続可能。	
助詞ト・ニ後接副詞	JRD5	だんだん	助詞ト、ニが接続可能。	
助詞ノ後接副詞	JRD6	大抵	助詞ノが接続可能。	
助詞ノ・ト後接副詞	JRD7	遙々	助詞ノ、トが接続可能。	
助詞ノ・ニ後接副詞	JRD8	なまじ	助詞ノ、ニが接続可能。	
助詞ノ・ト・ニ 後接副詞	JRD9	あちこち	助詞ノ、ト、ニが接続可能。	
助動詞ダ後接副詞	JRDA	わざと	助動詞ダが接続可能だが、助詞ノ、ト、ニの接続はできない。	
助動詞ダ・助詞ト 後接副詞	JRDB	のんびり	助動詞ダおよび助詞トが接続可能。	

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
助動詞ダ・助詞ニ 後接副詞	JRDC	なぜ	助動詞ダおよび助詞ニが接続可能。
助動詞ダ・助詞ト・ニ 後接副詞	JRDD	(頭が)がんがん	助動詞ダおよび助詞ト、ニが接続可能。
助動詞ダ・助詞ノ 後接副詞	JRDE	いよいよ	助動詞ダおよび助詞ノが接続可能。
助動詞ダ・助詞ノ・ト 後接副詞	JRDF	たっぷり	助動詞ダおよび助詞ノ、トが接続可能。
助動詞ダ・助詞ノ・ニ 後接副詞	JRDG	相当	助動詞ダおよび助詞ノ、ニが接続可能。
助動詞ダ・ 助詞ノ・ト・ニ 後接副詞	JRDH	ぎちぎち	助動詞ダおよび助詞ノ、ト、ニが接続可能。
連体詞	JRR1	ある、いかなる、 あらゆる、あの	連体修飾語にしかならない単語。指示連体詞も含む。
接続詞	JRC1	けれど、しかし、 ところが	文と文、句と句を接続する接続詞。
句読点を後接しにくい 接続詞	JRC2	および、かつ	文と文、句と句、単語と単語を接続する接続詞。
感動詞	JRT1	ありがとう、 どっこいしょ	活用がなく、主語、修飾語にならず、独立して用いられる語の中で、感動の感情を表したり、呼びかけ、応答等を表すもの。
体言接頭語	JRP1	初(孫)、副(読本)	体言を修飾する接頭語。
動詞接頭語	JRP2	薄ら(笑う)	動詞を修飾する接頭語。
前置助数詞	JRP3	約、第	
形容詞・形容動詞 接頭語	JRP4	べた(一面)、 生(暖かい)	形容詞と形容動詞を修飾する接頭語。
形容詞接頭語	JRP5	ほの(暗い)	形容詞のみを修飾する接頭語。
形容動詞接頭語	JRP6	不(自然だ)	形容動詞のみを修飾する接頭語。
サ変名詞接頭語	JRP7	丸(暗記する)、 再(出発する)	サ変名詞を修飾する接頭語。
読点	JRS1	「、」、 「, 」	読点および読点に相当する記号。
句点	JRS2	「。」、 「. 」	句点および句点に相当する記号。

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
並立助詞か	JR00H		
終助詞か	JR00E		
副助詞か	JR00F		
接続助詞かたわら	JR01S		
終助詞かな	JR02E		
係助詞かも	JR03K		
格助詞から	JR04C		
並立助詞から	JR04H		
接続助詞から	JR04S		
副助詞から	JR04F		
格助詞が	JR05C		
接続助詞が	JR05S		
終助詞が	JR05E		
係助詞きり	JR06K		
副助詞くらい	JR07F		
接続助詞けれど	JR08S		
終助詞けれど	JR08E		
接続助詞けれども	JR09S		
終助詞けれども	JR09E		
係助詞こそ	JR10K		
間投助詞さ	JR11I		
副助詞さえ	JR12F		
接続助詞し	JR13S		
係助詞しか	JR14K		
副助詞しも	JR15F		
副助詞すら	JR16F		
副助詞ずつ	JR17F		
終助詞ぜ	JR18E		
終助詞ぞ	JR19E		

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
接続助詞たって	JR20S		
副助詞たら	JR21F		
終助詞たら	JR21E		
並立助詞たり	JR22H		
副助詞だけ	JR23F		
並立助詞だの	JR24H		
副助詞だの	JR24F		
接続助詞つつ	JR25S		
接続助詞て	JR26S		
係助詞ては	JR27K		
接続助詞ても	JR28S		
格助詞で	JR29C		
接続助詞で	JR29S		
格助詞と	JR30C		
並立助詞と	JR30H		
接続助詞と	JR30S		
並立助詞とか	JR31H		
副助詞とか	JR31F		
接続助詞ところが	JR32S		
接続助詞ところで	JR33S		
接続助詞とて	JR34S		
副助詞とて	JR34F		
係助詞とは	JR35K		
終助詞とも	JR36E		
接続助詞とも	JR36S		
接続助詞ど	JR37S		
副助詞どころ	JR38F		
接続助詞どころか	JR39S		
接続助詞ども	JR40S		

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
終助詞な	JR41E		
間投助詞な	JR41I		
接続助詞ながら	JR42S		
並立助詞など	JR43H		
副助詞など	JR43F		
接続助詞なら	JR44S		
並立助詞なり	JR45H		
接続助詞なり	JR45S		
副助詞なり	JR45F		
並立助詞なんか	JR46H		
副助詞なんか	JR46F		
副助詞なんて	JR47F		
格助詞に	JR48C		
接続助詞に	JR48S		
格助詞にて	JR49C		
終助詞ね	JR50E		
間投助詞ね	JR50I		
格助詞の	JR51N		
準体助詞の	JR51J		
終助詞の	JR51E		
接続助詞ので	JR52S		
接続助詞のに	JR53S		
終助詞のに	JR53E		
副助詞のみ	JR54F		
係助詞は	JR55K		
接続助詞ば	JR56S		
並立助詞ばかり	JR57H		
副助詞ばかり	JR57F		
格助詞へ	JR58C		

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
副助詞ほか	JR59F		
副助詞ほど	JR60F		
格助詞まで	JR61C		
並立助詞まで	JR61H		
係助詞も	JR62K		
終助詞もの	JR63E		
接続助詞ものの	JR64S		
接続助詞ものゆえ	JR65S		
並立助詞や	JR66H		
接続助詞や	JR66S		
副助詞や	JR66F		
終助詞や	JR66E		
間投助詞や	JR66I		
接続助詞やいなや	JR67S		
並立助詞やら	JR68H		
副助詞やら	JR68F		
終助詞やら	JR68E		
接続助詞ゆえ	JR69S		
終助詞よ	JR70E		
格助詞より	JR71C		
終助詞わ	JR72E		
格助詞を	JR73C		
準体助詞ん	JR74J		
接続助詞くせに	JR75S		
接続助詞さかい	JR76S		
接続助詞じゃ	JR77S		
接続助詞だって	JR78S		
並立助詞だり	JR79H		
係助詞ちゃ	JR80K		

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
係助詞ちゃ	JR80K		
終助詞ちゃ	JR80E		
格助詞って	JR81C		
副助詞ってば	JR82F		
終助詞ってば	JR82E		
係助詞では	JR83K		
副助詞でも	JR84F		
接続助詞でも	JR84S		
係助詞ならでは	JR85K		
終助詞ものか	JR86E		
副助詞etc.	JR87F		
形容動詞連体形たる・の	JRW3		連体修飾する語尾(旧JRJ3)
準体助詞「の」のように体言を作る助動詞ざる	JRW4		連体修飾する助動詞(旧JRJ4)
文末に来る助動詞ごとし	JRW9	ごとし 有りや無しや	文末に来る語句(旧JRJ9)
不定数量	JRNG	何(千)、数(百)	
名詞系接頭語	JRP8	同(氏は)	
サ変未然形し・ザ変未然形じ	JEM1	し、じ(ない)	
サ変未然形せ	JEM2	せ(られる)	
サ変未然形さ	JEM3	さ(せる)	
カ変未然形	JEM4	こ(ない)	
五段未然形	JEM5	(書)か(ない)	
う後接未然形	JEM6	(書)こ(う)、 (赤)かろ(う)	
アル活用未然形	JEM7	(あ)ら(ぬ)	
ザ変未然形ぜ	JEM8	(信)ぜ(させる)	
サ変・ザ変・カ変連用形	JED1	し、じ、 き(ます、て)	

表2-2 日本語右側連接属性(RC) (続き)

カテゴリ	コード	例	説明
五段連用形	JED2	(書)き(ます)	
助詞テを後接する 五段動詞連用音便形	JED3	(行)っ(て)、 (書)い(たり)	
助詞デを後接する 五段動詞連用音便形	JED4	(読)ん(で)、 (泳)い(だり)	
形容詞連用形く	JED5	(赤)く	
形容動詞連用形で	JED6	(静か)で	
形容詞・形容動詞 連用形かつ	JED7	(赤)かっ(た)、 (静か)だっ(た)	
形容動詞連用形に	JED8	(静か)に	
特殊連用形ず	JED9	(書)か(ず)	
助動詞ナイ 特殊連用音便形	JEDA	(し)な(い(で下さい))	
動詞終止連体形	JEE1	する、来る、 (書)く	
形容詞終止・連体形・ 助動詞終止・連体形 た・ぬ	JEE2	(美)しい、 (書)いた、 (書)かぬ(こと)	
形容動詞終止形	JEE3	(静か)だ	
特殊終止(連体形) う・よう・まい	JEE4	(行)こ(う)、 (食)べ(よう)、 (行)く(まい)	
特殊終止(連体形)です	JEE5	(静か)です	
特殊終止・連体形ます	JEE6	(行)き(ます)	
形容動詞連体形な	JEA1	(静か)な(ところ)	
形容動詞 連体形な(のに)	JEA2	(同じ)な(のに)	
仮定形	JEC1	すれ(ど、ば)、 けれ(ど、ば)	
独立仮定形	JEC2	(言)っ(たら(ば))、 (言)う(なら(ば))	「ば」を後接しても、そのままでも仮定形になるもの。
命令形	JEI1	け(よ)、 しろ(よ)	「よ」を後接しても、そのままでも命令形になるもの。
「よ」で終わる命令形	JEI2	せよ、よ	

表2-3 日本語品詞名

類	品詞名	コード	例	説明
名詞	普通名詞	JN1	太陽、山	格助詞「が、を」が後続するもの。
	固有名詞	JN2	日本	地名、人名、製品名など、固有につけられた呼び名。
	数詞	JN3	0、1	アラビア数字、ローマ数字、漢数字など、数字列を構成する数字そのものおよび数字のけたを表わすもの。数字の列がまとまった、量日時を表わすものは含めない。
	時詞	JN4	今日、皆	同じ概念で、名詞(「が、を」を後接して、述語にかかる)にも、副詞(格助詞なしで述語にかかる)にもなるもの。時を表わす単語とは限らず、量や程度を表わす単語など、名詞であり、かつ副詞である構文的機能を持つものを含む。
	形式名詞	JN7	こと、もの	必ず、連体修飾句に修飾されて成り立つ名詞で、それ自体では、指示するものが限定できない不完全な概念を表わす単語である。
動詞	動詞	JVE	走(る)、 和(す)、 勉強(する)	終止形が母音ウで終わる活用する自立語。名詞にも動詞にもなるサ変名詞にも動詞(JVE)を付与する。すなわち、サ変名詞の品詞は、JN1;JVEである。
形容詞	形容詞	JAJ	美(い)、な(い)	終止形がイで終わる活用する自立語。
形容動詞	形容動詞	JAM	静か(だ)、 同じ(だ)、 感動的(だ)、 堂々(たる)	(1)終止形がダで終わる活用語。連体形は基本的にナであるが、ノを介して、あるいは直接に連体修飾になる場合もある。名詞に近いものもあるが、名詞との差異は、「が、を」を後接しないことである。 (2)連体形タル、連用形トをとるもの。
副詞	普通副詞	JD1	すっかり、ほぼ	基本的に、そのまま、連用修飾語となることができる。量や程度や様態を示す名詞については、「の」を伴って名詞を修飾することもできる。
	陳述副詞	JD2	たぶん	文全体の表現意図にかかわる部分を修飾する語となる。
連体詞	連体詞	JNM	ある、いかなる	連体修飾語にしかない単語。指示連体詞もむ。
接続詞	文接続詞	JC1	それで、しかし	文全体にのみかかる接続詞。
	単語接続詞	JC3	または、および	単語または句または文を結ぶ接続詞。

表2-3 日本語品詞名 (続き)

類	品詞名	コード	例	説明
接頭語	形容詞的接頭語	JT1	若(主人)、 安(月給)	形容詞、形容動詞の語幹の形をした接頭語。
	副詞的接頭語	JT2	再(入国)、 真(新しい)	副詞の形をした接頭語。
	連体詞的接頭語	JT3	各(家庭)	連体詞の形をした接頭語。
	接頭小辞	JT4	ど(あほう)、 お(茶わん)	敬語や強調など、用法上の接頭語。
	前置助数詞	JN5	第、約	数詞の前につく助数詞。
接尾語	接尾語	JB1	上、別	他の単語の語末について、複合語を形づくる。
	単位	JUN	メートル、ppm、 時、ダース	計測する対象の、計測基準量を表わす。数値がなくても(単独でも)、指示している実質概念がある点で、助数詞とは異なる。個数を数の集まりで数える「セット、組」も含む。
	後置助数詞	JN6	回、章	数や順序を示すのに、数えられるものを特徴づける接尾語。
語尾	動词语尾	JEV	か、き、く	動詞の活用語尾。
	形容词语尾	JEA	く、い、かつ	形容詞の活用語尾。
	形容動词语尾	JEM	な、だ、に	形容動詞の活用語尾。
構文要素				二つ以上の文節からなっていて、全体として、一つの構文要素となるもの。慣用句には、この類の品詞名が付与される。品詞名は、句全体の文法的機能からつける。
	体言句	JNP	背水の陣	
	述語句	JPR	足場を固める	
	連体修飾句	JAP	押すに押されぬ	連体修飾語として働く句。
	連用修飾句	JMP	雨が降ろうが 槍が降ろうが	連用修飾語として働く句。
	独立句	JIP	おそれ入谷の鬼 子母神	引用句として用いられる句。
	文	JSE	時は金なり	引用句として用いられる文。

表2-3 日本語品詞名 (続き)

類	品詞名	コード	例	説明
その他	助詞	JJ0	が、を、に	複数の単語の連続からなって、助詞相当の機能を持つもの。
	助詞相当語	JJ1	について	
	助動詞	JJD	せる、させる	
	助動詞相当語	JJP	てもかまわな い、ねばならな い	複数の単語の連続からなって、助動詞相当の機能を持つもの。文全体の表現意図を表わすなど、陳述にかかわる部分を担う。
	補助用言	JAX	始める、終る、 すぎる、やすい	単独で用言としても用いられる語で、助動詞相当の機能を持つもの。
	感動詞	JIT	おい、おや	
	記号	JSY	A、B	単に、文字としての記号。実質的な概念を代替するにすぎない。実質的な概念を指示する略称などは名詞(固有名詞)とし、記号には含めない。

表2-4 日本語の活用形情報

コード	説明	例
JMIZEN	未然形	(書)か(ない)
JRENYOU	連用形	(読)み(ます)、(赤)く
JRENYOU-NI	形容動詞連用形ニ	(静か)に
JRENYOU-DE	形容動詞連用形デ	(静か)で
JSHUUSHI	終止形	(穏やか)だ
JSHUU-TAI	終止・連体同形	(赤)い
JRENTAI	連体形	(華やか)な
JKATEI	仮定形	(よ)けれ(ば)
JMEIREI	命令形	(読)め、せよ

表2-5 日本語の動詞型活用

	活用の種類	コード	未然	連用	終止	連体	假定	命令
五 段	カ行五段活用	JRVK	か(こ)	き(い)	く	く	け	け
	ガ行五段活用	JRVG	が(ご)	ぎ(い)	ぐ	ぐ	げ	げ
	サ行五段活用	JRVS	さ(そ)	し(し)	す	す	せ	せ
	タ行五段活用	JRVT	た(と)	ち(っ)	っ	っ	て	て
	ナ行五段活用	JRVN	な(の)	に(ん)	ぬ	ぬ	ね	ね
	バ行五段活用	JRVB	ば(ぼ)	び(ん)	ぶ	ぶ	べ	べ
	マ行五段活用	JRVM	ま(も)	み(ん)	む	む	め	め
	ラ行五段活用	JRVR	ら(ろ)	り(っ)	る	る	れ	れ
	ワ行五段活用	JRVW	わ(お)	い(っ)	う	う	え	え
一 段	上一段活	JRV1	*	*	る	る	れ	ろ、よ
	下一段活用		*	*	る	る	れ	ろ、よ
変 格	サ行変格活用 (サ変名詞)	JRV2 (JRN4)	し、さ、せ	し	する	する	すれ	しろ、せよ
	ザ行変格活用	JRV3	じ、ぜ	じ	ずる	ずる	ずれ	じろ・ぜよ
	カ行変格活用	JRV4	こ(こ)	き	くる	くる	くれ	こい
特 殊	イク活用	JRV5	か(こ)	き(っ)	く	く	け	け
	アル活用	JRV6	ら(ろ)	り(っ)	る	る	れ	れ
	オッシュアル活用	JRV7	ら(ろ)	り・(っ)	る	る	れ	れ、い

注：*は語尾なしの接続を表す。カ行変格活用は特殊な熟語・成句などにのみ用いられる。
(例 やって来る)

表2-6 日本語の形容詞型活用

コード	未然	連用(特殊音便形)	終止	連体	假定	命令	例
JRA1	かろ	く、かつ、(う)	い	い	けれ	—	黒(い)
JRA2	かろ	く、かつ、(ゆう)	い	い	けれ	—	美し(い)、大き(い)
JRA3	かろ	く、かつ、(い)	い	い	けれ	—	な(い)

注：JRA3は助動詞の「ない」である。「読まないで」などデ形に接続する場合、連用形がナイとなる。なお、形容詞の「ない」は、JRA1である。

表2-7 日本語の形容動詞形活用

	コード	未然	連用	終止	連体	假定	命令	例
ダ活用	JRM1	だろ	で、だっ、に	だ	な(な)	なら	—	静か
	JRM2	だろ	で、だっ	だ	な(な)	なら	—	危険
	JRM3	だろ	で、だっ、に	だ	な、の(な)	なら	—	無心
	JRM4	だろ	で、だっ	だ	な、の(な)	なら	—	多額
	JRMA	だろ	で、だっ、に	だ	の(な)	なら	—	久し振り
	JRM5	だろ	で、だっ、に	だ	* (な)	なら	—	こんな
	JRM9	だろ	で、だっ、に	だ	*、な(な)	なら	—	多角的
タルト活用	JRM7	—	と	—	たる、の	—	—	堂々
	JRM8	—	と	—	たる	—	—	洋々

注：()内は接続助詞「のに」等に接続する連体形

*は語尾なしの接続を表す

表2-8 日本語動詞の表層格情報

コード	説明	例
JK01	ガをとる 主体 属性の対象 属性の主体	(私が)書く (編み物が)できる (道が)曲がる
JK02	ヲをとる 対象 経過点や起点	(本を)読む (公園を)散歩する
JK03	ニをとる 終点、終状態 受け手 与え手 観点、属性	(学校に)行く (彼に)あげる (親に)もらう (積極性に)欠ける
JK04	デをとる 道具、手段、方法 原材料、構成要素	(金鎚で)叩く (牛乳で)作る
JK05	カラをとる 始点、始状態 与え手、相手、発信源 原材料、構成要素	(今から)始める (親から)もらう (牛乳から)作る
JK06	トをとる 内容 対象相手 同伴相手	(やると)言う (電源と)接続する (妻と)仲たがいする
JK07	ヨリをとる 比較	(彼より)見劣する
JK08	ヘをとる 終点、終状態 受け手	(東京へ)行く (親へ)泣きつく
JK09	マデをとる 終点	(大阪まで)行く
JK10	ノをとる 慣用句(特殊)	(彼の)役に立つ

表2-9 日本語形容詞・形容動詞の表層格情報

コード	説明	例
JK01	ガをとる 対象 主体	(頭が)痛い (私が)好きだ
JK02	ヲをとる 対象	(彼を)嫌いだ
JK03	ニをとる 対象	(右に)同じだ、(彼に)気の毒だ
JK04	デをとる 材料 妥協点 主体(組織体)	(水で)一杯だ (明日で)いい (EDRで)欲しい
JK05	カラをとる 起点	(駅から)遠い
JK06	トをとる 比較 対象相手 対象地点	(彼と)違う (計算値と)同じだ (東京と)近い
JK07	ヨリをとる 比較	(車より)速い
JK09	マデをとる 終点	(駅まで)近い
JK10	ノをとる 慣用句(特殊)	(彼の)口が堅い

表2-10 日本語動詞の相情報

項目	コード	例	説明
『ている』	JA11	いる、ある	後接しない。
『でいる』	JA12	愛する、痛む	後接して、状態、性質を表す(注1)。
	JA13	遊ぶ、集まる	後接して、動作、現象が進行状態であることを表す。
	JA14	溢れる、死ぬ	後接して、動作、現象の完了状態、または、動作、出来事の結果の状態を表す(注2)。
『てくる』	JA20	結婚する、住む	後接しない。または、後接しても時間的継続のみを表す(注3)。
『でくる』	JA21	改まる、痛む	後接して、時間的継続のみでなく、無意志の発生、変化を表す(注4)。
	JA22	遊ぶ、会う	後接して、時間的継続のみでなく、有意志の場所的移動を表す(注5)。

注1: 「～ておく」ということができない。また、「～てくる」といったとき話者の意志が含まれない。動詞の意味自体が状態の性格をもっているものは、このコードに分類されている。すなわち、「生きる/生きている」、「似合う/似合っている」などのように、原形とテイル形がほぼ同じく状態を表わすようなものは、動作でなく状態を表わす動詞とみなす。いわゆる状態動詞は、この分類にはいる。また、自分の意思でコントロールできない感情活動も、このコードに分類されている。このコードと、JA14、JA22とは共存しない。

注2: 動作の結果状態とは、JA12でいう「状態」とは異なり、「死ぬ/死んでいる」、「結婚する/結婚している」などのように、原形の動詞が表す動作、出来事が起こり、その結果として残っていると考えられる状態をいう。「ゴキブリが死んでいる」などのように、動作、出来事自体に関心がなく現在の状態のみを問題にしているケースでも、確かに原因となる出来事が想定できれば結果状態とみなす。いわゆる瞬間動詞は、この分類にはいる。

注3: 「今までずっと～てきた」というパターン。

注4: 「だんだん～てくる」というパターン。

注5: 「会社が電話してくる」などのように、方向性のある動作について方向を示す場合もこの分類にはいる。

表2-11 日本語の機能語(助詞および助詞相当語)

コード	助詞	コード	助詞
JJBA	ば	JJNEE	ね、ねえ
JJBAKARI	ばかり	JJNI	に
JJDAKE	だけ	JJNITE	にて
JJDANO	だの	JJNO	の
JJDATTE	だって	JJNODE	ので
JJDE	で	JJNOMI	のみ
JJDEMO	でも	JJNONI	のに
JJDOKOROKA	どころか	JJSAE	さえ
JJGA	が	JJSA	さ
JJHA	は	JJSHI	し
JJHE	へ	JJSHIKA	しか
JJHODO	ほど	JJSHIMO	しも
JJHOKA	ほか	JJSURA	すら
JJKA	か	JJTARA	たら
JJKAI	かい	JJTARI	たり、だり
JJKAMO	かも	JJTATTE	たって、だって
JJKANA	かな	JJTE	て、で
JJKARA	から	JJTEHA	ては、では
JJKASHIRA	かしら	JJTEMO	ても、でも
JJKATAWARA	かたわら	JJTO	と
JJKEREDOMO	けれども、けれど	JJTOKA	とか
JJKIRI	きり	JJTOKORODE	ところで
JJKOSO	こそ	JJTOKOROGA	ところが
JJKURAI	くらい、ぐらい	JJTOMO	とも
JJKUSENI	くせに	JJTOTE	とて
JJMADE	まで	JJTSUTSU	つつ
JJMO	も	JJTTE	って
JJMONO	もの	JJTTEBA	ってば
JJMONOKA	ものか	JJWA	わ
JJMONONO	ものの	JJWO	を
JJNA	な(禁止)	JJYA	や
JJNAA	な、なあ(感動)	JJYAINAYA	やいなや
JJNADO	など	JJYARA	やら
JJNAGARA	ながら	JJYO	よ
JJNANKA	なんか	JJYORI	より
JJNANTE	なんて	JJYUE	ゆえ
JJNARA	なら	JJZE	ぜ
JJNARADEHA	ならでは	JJZO	ぞ
JJNARI	なり(接続助詞)	JJZUTSU	ずつ

表2-11 日本語の機能語(助詞および助詞相当語) (続き)

コード	助詞相当語	コード	助詞相当語
JNIATARU	にあたる	JNITSUITE	について、につき
JNIATATTE	にあたって	JNITSURETE	につれ、につれて
JNIKAKAWARAZU	にかかわらず	JNIWATARU	にわたる
JNIKANSHITE	に関し、に関して	JNIWATATTE	にわたって
JNIKANSURU	に関する	JNIYORU	による
JNIKAWATTE	にかわって	JNIYOTTE	によって、により
JNIMOKAWARAZU	にもかかわらず	JNOYOUNA	のような
JNIMOTODUI TE	に基づき、に基づいて	JNOYOUNI	のように
JNIMOTODUKU	に基づく	JTOIU	という
JNIOITE	において	JTOSHITE	として、とし
JNIOKERU	における	JTOSUREBA	とすれば
JNIOUJITE	に応じ、に応じて	JTOSURU	とする
JNISAISHITE	に際し、に際して	JTOTOMONI	とともに
JNISHITAGATTE	に従い、に従って	JWOBA	をば
JNISHITEMO	にしても	JWOKAISHITE	を介して、を介し
JNISOTTE	にそって、にそい	JWOKAISURU	を介する
JNITAISHITE	に対して、に対し	JWOMOTTE	をもって
JNITAISURU	に対する	JWOSHITE	をして
JNITOMONATTE	に伴って、に伴い	JWOTOOSHITE	を通して
JNITOMONAU	に伴う	JWOTSUKATTE	を使って、を使い
JNITOTTE	にとって、にとり	JNIITARU	にいたる
JAKARAIUTO	からいうと	JNINAKU	になく
JDAKENI	だけに	JNISHITE	にして
JDEMOTTE	でもって	JNITSUKE	につけ
JGAHAYA IKA	がはやいか	JNIYORUTO	によると
JKARAMIRUTO	からみると	JTOHAIE	とはいえ
JKARANIHA	からには	JTOIEBA	といえは
JKARASHITE	からして	JTOIEDOMO	といえども
JKARASURUTO	からすると	JTOITTE	といって
JKARATOITTE	からといって	JTOIUTO	というと
JKATOIUTO	かというと	JTOKITARA	ときたら
JMONODAKARA	ものだから	JTONARUTO	となると
JMONONARA	ものなら	JWOHAJIME	をはじめ
JNIATTE	にあって		

表2-12 日本語の機能語(助動詞および助動詞相当語)

コード	助動詞	コード	助動詞
JBESHI	べし	JSERU	せる、させる
JDA	だ	JSOUDA1	そうだ(伝聞)
JDESU	です	JSOUDA2	そうだ(様態)
JMAI	まい	JTA	た
JMASU	ます	JTAGARU	たがる
JNAI	ない	JTAI	たい
JNU	ぬ	JU	う、よう
JRASHII	らしい	JYODA	ようだ
JRERU	れる、られる		

コード	助動詞相当語	コード	助動詞相当語
JCHIGAINAI	に違いない	JTEHOSHI I	てほしい
JIKENAI	てはいけない	JTEIKU	ていく
JKAGIRANAI	と限らない	JTEIRU	ている
JKAMAWANAI	て構わない	JTEKURERU	てくれる
JKAMOSHIRENAI	かもしれない	JTEKURU	てくる
JKUDASAI	て下さい、て下さる	JTEMIRU	てみる
JMIERU	てみえる	JTEMORAU	てもらう
JMITAI	てみたい	JTEOKU	ておく
JNARANAI	てはならない	JTESHIMAU	てしまう
JNASAI	てなさい、てなさる	JTEYARU	てやる
JNASASUGIRU	なさすぎる	JTSUTSUARU	つつある
JNEBANARANU	ねばならぬ	JUTOSURU	うとする
JOYOBANAI	に及ばない	JWAKENIIKANAI	わけにいかない
JSASHITSUKAENAI	さしつかえない	JYARANU	やらぬ
JSUGINAI	に過ぎない	JYOI	てよい
JTEAGERU	てあげる	JZARUWOENAI	ざるをえない
JTEARU	である	JZUNI IRARENAI	ずにいられな
JUDEHANA IKA	ではないか	JHOKANAI	ほかない
JKOTONISURU	ことにする	JMADEMONAI	までもない
JKOTONINARU	ことになる	JMONODENAI	ものでない
JZUNI IRU	ずにいる	JYOUNISURU	ようにする
JTESHIKATANAI	てしかたない	JYOUNINARU	ようになる
JDOKORODEHANAI	どころではない	JWAKEDEHANAI	わけではない
JNAIDEHAOKANAI	ないではおかない		

表2-13 日本語のその他の機能語(形式名詞、数詞、接続詞)

コード	形式名詞	コード	形式名詞
JAGEKU	あげく	JME	目
JAIDA	あいだ	JMONO	もの
JATARI	辺り	JOKAGE	おかげ
JBAAI	場合	JORI	おり
JDAN	段	JSAMA	さま、様
JHAME	はめ、羽目	JSEI	せい
JHAZU	はず	JTABI	たび、度
JHODO	ほど	JTAME	ため、為
JHOKA	ほか	JTOKI	とき、時
JHOU	ほう、方	JTOKORO	ところ
JIGAI	以外	JTOORI	通り
JIJOU	以上	JTOTAN	途端
JIPPOU	一方	JTSUDO	つど、都度
JKAGIRI	かぎり	JTSUMORI	つもり
JKAWARI	かわり、代わり	JUCHI	うち
JKEN	件	JUE	うえ、上
JKORO	ころ、頃	JWAKE	わけ、訳
JKOTO	こと	JYASAKI	矢先
JKURAI	くらい	JYOSHI	よし、旨
JMAGIWA	間際	JYOU	よう、様
JMAMA	まま		

コード	数詞	説明	例
JSUUZI	数字	そのみで数量を表わす。 あるいはJKETA1、JKETA2の前にくる。	1、2、3
JKETA1	けた1	数字の後ろにきてけたを示す。 JKETA2の前にもきうる	十、百、千
JKETA2	けた2	数字の後ろにきてけたを示す。	万、億、兆

コード	接続詞	説明	例
JSETSUZOKU	接続関係	展開、反対、補充、転換、理由	したがって、しかし、 ただし、ところで
JHEIRETSU	並列関係	累加、選択、同帰	そして、あるいは、 すなわち

表2-14 用法

内容	コード	説明	例
擬音語	SO	現代の用法において物の音や動物の声などをまねてその音及び声を形容する語をいう。その音及び声を発する対象そのものは含まない。	ごろごろ
擬態語	MI	現代の用法において物事の状態・様子をそれを示すのにふさわしい音で表し、その状態・様子を形容する語をいう。	ほくほく、こっくり
(省)略語	AB	語形の一部を省いて簡略にした語	高裁
敬語	HO	敬意や遠慮を表すために使う語。	申し上げる、召し上がる
俗語	CN	軽蔑や非難、からかいを表すために使う語や特定の社会でのみ通用する隠語。	でぶ
俗語読み	CNYOM	読みとして、「俗語隠語」に該当するもの。	私[アタイ]
古語	OLD	古語・雅語・文語（現代語としては希少出現にあたる語）	
外国語	GAI	他国語で、外来語としては定着していないレベルの語。	妓生[キーセン]
歴史用語	REKISIT	歴史用語	天叢雲の剣
その他の専門用語	TOKUSEN	その他の専門用語	VOA、夷毘沙門
人名	HNAME	固有名詞（姓、名、人物名など）	ケネディ、弁慶
地名	PLACE	固有名詞（国名、行政区域名（区市町村名・州名）、地域名）	カナダ、秋田
自然地域名	SIZEN	固有名詞（山、川、湖、平野、海など）	アルプス、大島
組織名	SOSIK	固有名詞（行政機関、国際機関、役所、病院、警察、軍隊、学校、会社、店など）	学士院、東京大学
施設名	SISETU	固有名詞（公園、遊園地、空港、駅、公園、遊園地など）	阿寒国立公園、甲子園
道路鉄道名	MITI	固有名詞（道路、線路、橋、トンネルなど）	奥州街道、金門橋
年号	TIMES	固有名詞（年号、時代、時期など）	安政、カンブリア紀
その他の固有名詞	PROPN	固有名詞（書物、新聞、辞典、事件、法令、協定、計画名、絵画、像、音楽、民族名、家名など）	君が代、五経